

リハ介入時に放射線治療時の患部に温熱療法を実施した 3 症例

聖マリア病院 リハビリテーション室 今井 恵夢、矢木 健太郎、泉 清徳
放射線治療科 平田 秀紀

【目的】

はじめに、Hyperthermia は放射線療法や化学療法と併用することで治療効果高めると報告されている。今回、対象者の理学療法施行時に照射部位に温熱療法を、照射終了まで実施した 3 症例を経験したので報告する。

【方法】

表在性および浅在性腫瘍を認める症例の放射線治療前もしくは後に Low hyperthermia としての 40°程度の加温可能なホットパック(乾式: Cat-belly@)を用い、20 分前後実施した。

【症例紹介】

(症例 1)60 代女性、乳癌およびリンパ節転移に対し胸壁と鎖骨上に対し照射を開始(dayX)。X+23day より放射線治療前リハ介入時に照射部位に対し温熱療法を実施した結果、自壊していた乳癌は実施前と比較すると縮小し、止血された。

(症例 2)70 代女性、子宮頸癌に対し照射を実施中、左鎖骨下リンパ節転移が見つかり同部位に照射開始(dayY)。温熱療法併用は Y+4day から実施した。Y-25day の CT と比べ、照射終了時では病変は縮小し、その後腫瘍の増大は認めなかった。

(症例 3)70 代男性、進行性食道癌、鎖骨上窩リンパ節転移に対し放射線治療 (DayZ)と FP 療法 (シスプラチン+ 5 FU) を併用しており、Z+22day より温熱療法を開始した。治療前に比べ鎖骨上窩リンパ節の腫瘍の縮小を認めた。

【まとめ】

経験した 3 例については有害事象もみられず、治療実施前後にて腫瘍の縮小がみられた。放射線療法単独の効果との比較検討は今後必要と考える。